

ヌラ アッサンマン 米国出身の元カトリック

:

明:ヌラは若き改宗者として、家族との について ります。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より:ヌラ アッサンマン

EB0 Jun 2014

集日 30 Jun 2014

私は15 のときにムスリムになりました。私の母はデトロイト出身のシリア人（アレッポの起源）で、父はポ ランド スロヴァキア系の米国人です。私もミシガン州デトロイト生まれです。私の祖母はマロン派キリスト教徒で、父と母は共にカトリック信者です。私は15 のとき、まず修道女になりたいと思っていました。高校で世界史を取ったとき、私たちは世界の主要な宗教について学びました。イスラ ムのところに入ったとき、私は非常に 味深々でしたが、クラスの中にエジプト人がおり、教 の いを指摘したとき、彼の信仰心は相当なものだと 愕したのを えています。そしてある日、私は彼にカトリックとイスラ ムの いについて したのです。彼はそんなに いはないと言いました。その返答に 足出来なかった私は、彼の母 に英 のクルア ン抄本をくれないかと ねました。彼女がそれをくれ、一旦それを手にとって み始めると、それを置くことが出来ませんでした。私はただそれに み耽り、それがアッラ からのものであることを 信したのです。それを人 が いたものではないことは、至 明らかでした。私は が好きなため、それをとても し、魅力を感じました。それゆえ、すでに私の心はムスリムになっていました。

それから、一 にあらゆる困 がやってきました。私は礼 や断食などをするようになりましたが、 、特に母 は酷い を始めました。彼らは私と同じようにイスラ ムを してくれると思いい ンでいましたが、全く正反 の反 を示しました。彼らは私のヒジャ ブ、礼 用 毯、

クルアーン写本、イスラームを取り上げました。父は私の部屋を日探ったので、私はヒジャブをクロゼットにさなければなりませんでした。母はムスリムと友になることを禁じるようになり、私の友人のし、私にイスラームについてし、私を混乱させることを止めるよう要求したのです。

は私に教会へ行くよう仕向け、私はそこに座りつつ、いかに彼らが迷妄しているかを眺め、牧師が人々に嘘を吹きこみ、彼にとって都合の良い部分だけをバイブルから引用し、その意味をねじ曲げていたことに呆れていました。ある日、母は私を連れ、牧師の一人と会をけました。私は自分がイスラームをしており、なぜイスラームのような美しいものを彼らがいこととしてなしているのかいました。彼はあれこれ述べ、バイブルから引用してせました。また彼は、私のた（ムスリム国家に旅し、砂漠でヒジャブをまとっていたもの）がサタンからのものであると言い放ちました。この男がそう言ったとき、私は彼こそがサタンにえたのです！そのときの彼の形相を、私はして忘れることは出来ないでしょう。私はアッラのお赦しを乞いました。

母はわざと豚肉料理を作り、それが牛肉であると言いましたが、私が包みをべると、それは豚肉といてありました。そしてポランドスロヴァキアの祖先を持つ父は、自分の家ではカトリックであるか、家を去るかの二者一であると迫りました。彼らにつかるとゴミ箱に投げられるため、私はクルアーン写本をエアコンの通口にさなければならぬ程でした。また彼らは私の部屋のを外してしまったため、礼をする事すら非常に困りました。彼らは私の礼を嘲笑したものです。私はそれを、アラビアの礼についての小から一人で学んでいました。が私とイスラームにしてこのように振舞っていたことから、私がいかについていたかは、舌に尽くしがたいものでした。

私はイスラームについて妹にし始めました。は、それを止めなければ家を追い出すと告げました。私は止めましたが、妹には山のことをしたため、彼女はなぜカトリックは神に直接お祈り出来ないのかや、悔にしてなど、多くの疑を持つようになりました。私は将来、イスラームを完全に踐するのだという祈りを、彼女と捧げました。私はしばらく礼をしなくなりました。神がそれをお赦しになりますよう。私には、「の言うことをきなさい」と忠告する友人の以外には、助言したり支えてくれる人はいませんで

した。ムスリムの友人たちには、私が直面している事の深刻さが理解出来ませんでしたし、彼らは私の疑に答えてくれるだけの知も成熟さもありませんでした。

私が二十になった大学代のある日、近所にモスクが出来たという噂をき、クルアーンをくれた友人の母にしてみました。それ以前、最寄りのモスクへは車で45分10分の所にあったのです。彼女は、そこで夕食会をやっていることを教えてくれました。そこへ行ってみるとアザン（礼の呼びかけ）がこえてきたため、感のあまり泣いてしまいました。ラマダン中、私はシャハダを繰り返し、や他の人々が何をしようと、また何と言おうとも宗教的に固たることを意しました。当の私は自分の置かれた状況を、にみられたユヌス（彼に神の慈悲と祝福あれ）のそれと付けることが出来ました。私は意を新たにしていました。そしてそれまでのいや友たちとし、ムスリムたちと一にこし始めたのです。

私はヒジャブを着用し始めましたが、は「その格好で外出することなどはさせない」と言いました。私はわず出けるか、あるいは家に留まりました。私の母は「イスラムはの言うことをくようにしているから、私たちの言うことをきなさい」と言い、彼らにられない、にはの中でヒジャブを着けました。彼女は「その布切れをにせるのではなく、おしゃれな格好をきなさい」と言いました。また「あなたのイスラム的な格好とヒジャブは、あなたを年寄りにせるわよ」と言いました。ある、母は私がヒジャブを着けているのを妹の友人たちにられたくなかったため、母と妹は私のからそれを剥ぎ取りました。そのの反射で、私は母をぶってしまいました。神が私をお赦しになりますよう。

彼女は、私が自分手にヒジャブを着けることによって、妹と家族全体にをかかせていると言いました。彼女は住んでいる街で私と一にられることを好みませんでした。また私は祖母からも酷いいを受けました。私が礼をしていると、彼女は私にこう叫んだものです。「私の言っていることがこえないのかい!？」

また彼女は、イエスが奇的な生をしたことが信じられないとさえも言いました。彼らは私がクルアーンをいっていると嘲笑し、暴言を吐きました。祖父は私と口をきかなくな

り、母や祖母は「地に堕ちろ」と私に言い放ちました。数年前、彼女は私を精神科に入れていこうとした程です。彼女は精神科医に私がムスリムになったことを告げ、精神をませようとしてきました。私はそれをゴミ箱に捨ててました。これらの事が次から次へと起きていたため、大学で勉に集中することは非常にしいものでした。私はイスラムのことを勉して学者のようになりたいと思っていました。それゆえ、私は婚相手を探すようになりました。

アッラにすべての称あれ。私はシリアのダマスカス出身の良いムスリムを見つけました。私たちは婚し、アトランタからヒューストンに引っ越しました。その一年、私たちはユスフという男の子を授かりました。今はとても幸せです。神の御意であれば、私たちはマディナに移り住むことを予定しており、物事はにんでいます。最近、私は同に改宗したヨルダン人の妹とも出会いました。彼女は私のように困をくぐりけてきた女性です。また、エルサレムに引っ越して改宗したニューヨーク出身のユダヤ教徒の男性のこと、そして彼のモロッコ出身のユダヤ教徒の女性と彼女の子供たちも改宗し、ムスリム国家に移住してアラビアを勉しているといったような素晴らしいもきます。アッラにこそすべての称があります。私はただ、イスラムへとおき下さったアッラに感ずるのみです。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/638>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。